

## 平成29年度第1回当別町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会 会議要旨

- 1 日 時 平成29年6月6日(火) 13時30分から15時30分
- 2 場 所 当別町役場 第二庁舎2階会議室
- 3 出席委員 山田委員長、黒澤副委員長、宮崎委員、佐々木委員、原口委員、田口委員  
佐藤委員
- 4 欠席委員 川村委員
- 5 町出席者 長谷川課長、小畑主幹、永井係長
- 6 傍聴者 なし
- 7 会議要旨

- (1) 新委員として、石狩振興局地域政策課長の原口委員より挨拶あり。  
(委員名簿を配付)

- (2) 委員長挨拶(要旨)

委員の皆さまにおかれましては、お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。前回は、年度末に開催させていただき各重点プロジェクトの進捗状況の説明と平成29年度予算等の説明を行いました。今回は、前回会議の際に出された意見と会議終了後に提出された意見について説明を行い、推進委員会として各重点プロジェクトに対して意見や提言をしていきたいと思っておりますので、活発な議論をよろしく願います。

(議題)

- (3) 総合戦略の進捗状況について

・前回推進委員会における主な意見について 資料1 参考資料 ～小畑主幹説明  
※資料1及び参考資料に基づき説明。参考資料については、委員のみに配付。

委員長～建設費のコストの関係ですけど、2005年と比べて2016年は、約10%増と説明がありましたが、実際はもっと上がっているような気がします。札幌市内でアパートやマンションを建てたい意向がある方の話を聞いたら、人件費と資材高騰が凄く約20%～30%増と聞いている。道の駅が1年遅れることになって見積りを徴収したところ金額が全然違っていたことも聞いている。そのことについては事務局としてどのように考えていますか。

(事務局)～資料は全国平均となっていますので、都道府県別のデータがない状況となっております。

委員長～情報収集ができましたらしてみてください。東京オリンピック景気等で人材確保することが難しく、人件費を上げて人も集まらない状況となっている。北海道ベースの状況の建設コストが分かるものがあれば調べてもらいたい。ここ1年、2年のスパンでも大分違ってきている。

田口委員～コストは、10%どころかもっと上がっている。10%だと3万5千円の家賃を4万円にすればなんとかやっているとかが、それでは間に合わないことだと思う。

黒澤副委員長～アパートに関して、空家の中でも直せば使えるものと直しても使えないものがあると思いますが、そのような空家やアパートを貸し出すことは考えていないのか。

(事務局)～アパート組合加盟のアパートは入居率が95%となっており、残りの5%は、リフォームを行ってもなかなか厳しい位老朽化が進んでいる。当別で部屋を見つけていけない学生は、あいの里や新琴似に流れてしまっている。やはり学生が住めるアパートを建てる必要がある。喫緊の課題としてアパートを建設していただける方に補助や支援していくことが必要である。意見に対しての書き方について弱いと思いますが、役場庁内の議論の中では、町内のアパート組合に限らず札幌で事業を展開している不動産業者を呼び込むことも必要で、ある種の企業誘致と考えている。

黒澤副委員長～いわゆるアパートして古くなった場合と、一軒家だけどまだ使えるパターンがあると思うが、北海道医療大学が当別に来た当時は、一軒家を借りて5～6人で住んでいたこともあった。現状はどうか分からないが、そのあたりは押さえていますか。

(事務局)～20年、30年前は、下宿がたくさんありましたけど、現状はほぼない状況である。今の学生は一人暮らしを望んでいるので、一軒家に共同で住むのはなかなか難しい。また、一般世帯の共同入居もほとんどない。一軒家物件は町内にもそれなりにあります。学生のニーズもこれまで以上に調べていかないといけない。

山田委員長～町の空家対策は、横の連携はとれているのか。

(事務局)～環境生活課の方で住める空家も含めて管理をしている状況であります。住める空家かどうかは不動産業者がより詳しく、現状は不動産業者頼みであります。町で空家を管理してそれを売買等するのはなかなか難しいです。

・各重点推進プロジェクト進捗状況における意見について 資料2 ～小畑主幹説明  
※平成28年度のKPIの数値を説明。

山田委員長～道の駅の入込客数は、観光入込客数として数えるのか。KPIの整合性はとれているか。

(事務局)～観光入込客数に数えることとなり整合性はとれています。また、道民の森の入込客数の減少は、施設の老朽化や閉鎖した地区があり入込客数の減少は続いている。一方ゴルフ場、ふとみ銘泉は伸びてきている状況がある。

黒澤副委員長～交渉企業数についての変更はあるのか。何か進展はあったのか。また、植物工場とは何のことですか。

(事務局)～直近の最新の状況ないですが、小売業の2店舗について太美地区に建設

予定でしたが、1件が駄目になりそうです。もう1店舗については工事が開始しております。植物工場とは、建物の中で野菜を生産するものであります。

黒澤副委員長～企業誘致にあたっては土地の整備等インフラ整備をしないと駄目だと思いますがいかがですか。

(事務局)～土地については、現状農地となっているのがほとんどで、空いている町有地は必要に応じて売却や賃借することはできますが、国道沿いの条件の良い場所は、農地であり、用途を変更するには、多額の経費がかかることとなります。

黒澤副委員長～町として特定の地区に誘致したいとかはありますか。

(事務局)～例えば、太美地区には地中熱があるので、植物工場が適しているなど優位性を活かした誘致が必要だと思います。道の駅での通年の野菜の確保が必要でハウス栽培をする農家さんにビニールハウスの補助を行う取り組みを行っていますが、ハウスだけでは、冬は厳しいと思いますので、しっかりとした建物の中で生産できる体制が必要であります。

佐々木委員～農業10年ビジョンでGPSやITを使用するのは流行っているが、どんどん入れていくにはお金の問題がある訳で、労働が減って行って高齢化で担い手がなくなっていくので、ハイテク化とのバランスをどうとっていくのかは必要。具体的に農協がどう進めていくかと、これが上手く回っていくとKPIは、本当はもっと上がるはずだと思う。

(事務局)～農業就業者は減ってきてますが、耕地面積は減ってなくきちんと維持をしている。一軒当たりの耕作面積が大きくなっており、農業をやめた方から賃借している状況であります。そのためには、GPSを使った無人機械の耕作が大事でありICTの取り組みは必要であります。特に米、麦、大豆は無人機械が有効な手段である。農協の考え方は本日川村委員が欠席されており分かりませんが、高収益作物を行っていかねばならず、その場合ハウス栽培が中心となっていくので、それを進めて収益を上げていきたい考えが町としてあります。一方農家さんの本音は米・麦・大豆は手間がかからないのでそちらを進めたいと思っている農業者がいるのも事実です。当然組合員の意向が重視されますので現状は、土地利用型作物が主となっております。

山田委員長～去年若手の農業者がGPSに係る要請はありませんでしたか。

(事務局)～実際事業は進んでおり、基地局(アンテナ)が役場にあり、一部予算を持っております。

黒澤副委員長～札幌が隣なので、そのメリットを活かすために多品種を作った方がいいのでは。十勝みたいな大規模畑作みたいな方式ではなく、札幌に持って行ってすぐに消費ができるものがないのではないかと。

(事務局)～当別町も数年前から、都市近郊の町として野菜を作って札幌に売りにいくため、軽トラマーケットという取り組みを行っている。軽トラックの荷台に野菜をいっぱい積みイベント等で売るものであります。農家さんが独自行うのが理想で

すが現状は町が主催して行っております。道の駅は、そういったこともあり札幌市に極めて近い場所に建設を行っております。

山田委員長～去年の小麦なまぐさ黒穂病の影響はどの程度か。また、ビニールハウス補助予算はどのような感じか。

(事務局)～予算計上分は30棟分となっており、昨年から計上しております。また、小麦なまぐさ黒穂病対策等として、新年度より適正な輪作体系の構築に必要な予算を計上している。

田口委員～基本目標における新規雇用創出者数については、運営会社の新規雇用者数はカウントするのか。

(事務局)～9月に道の駅が開業した段階で雇用があれば新規雇用者数にカウントする形になりますが、当初の数値目標設定時には、道の駅で何人雇用するかが全く決まっていませんでしたのでカウントしておりませんでした。数値を増やすべき等の意見もあればいただきたいと思います。

佐々木委員～道の駅の雇用についてはもう集まりましたか。

(事務局)～まだ全員の確保はできていません。

黒澤副委員長～土日であれば、学生のアルバイトも多少期待できると思います。

山田委員長～9月オープンなので、今の内に人員を確保して販売の指導の期間も必要である。特に女性が集まっていないと聞いている。財源確保の交付金の確保はどのような感じか。

原口委員～北海道の地域づくり総合交付金については、現状交付スケジュールが遅れており、募集をかけるところまでいきついていません。ただし、事前着手ということも認められています。道の駅については、平成27年度、平成28年度と応募いただき、100%充当とはいきませんができる限りのことはしたいと思っています。

黒澤副委員長～道の駅の周りの総合的な計画、例えば、アクティビティ施設、パークゴルフなどはあるのか。

(事務局)～食の総合拠点プロジェクトにあるように、企業の集積のイメージがありますが、そこは農地であるので、食品関係をメインとすれば農地転用のハードルが少しは下がる可能性があり、ことから食品関係を中心に進めることが必要であります。実は、道の駅自体の農地転用のハードルが高かった状況があるので、アクティビティ施設は更にハードルが高いと思われます。周りの農家さんの理解があれば、収支の問題がクリアできれば体験農場等の実現可能性はあると思います。道の駅だけではさみしいので、今後の土地利用を全庁的に考えていかないとならないです。

佐々木委員～道の駅がどのようなものか知りたい。道の駅のイメージが湧かない。道の駅は野菜があるので、夏は札幌近辺から人が来ると思う。冬が課題だと思っ  
まして、空間ショップの魅力をどう創れるかが第一で、その次の段階でアクティビティ等があった方がいいと思います。道の駅や魅力的な商業施設は道内にたくさんあるので、道の駅の魅力に尽きると思います。総合戦略の中では一番魅力があるブ

プロジェクトだと思っています。

(事務局) ~冬は野菜の販売が落ちるのは当然であります、姉妹都市の産品等を置けないかの検討もしております。当別にはない宇和島市の海産物等は魅力があると思います。

佐々木委員~江別には、エブリという旧平レンガ倉庫を改修した、江別の有名スイーツやイタリア料理が入っている。そこは地元の人がかかり行っている。当別も地元の方がいきたいと思うものが半分以上でないと、北区、東区の人に頼ってばかりということにはならないので、町民に愛される視点は必要である。

(事務局) ~※道の駅施設資料で概略を説明。

佐藤委員~関連工事で道の駅から北側に向かう川下右岸線を拡幅しないといけないという話がある。ここはバスが通るようになりますが、雪の状況を考えた場合狭すぎるとい話がある。冬はまともに西風が吹く。この道幅だと非常に不安がある。

(事務局) ~川下右岸線拡幅の道路事業計画も検討中であります。道路の横に用水路が通っているので、構造及び費用が多額であるため、道の駅と337号と繋がっている部分については札幌開発建設部で整備をしていただいている。そこから北の道路については、この冬バス運行事業者と確認してなんとか大丈夫ということで確認しました。

佐藤委員~防雪柵も必要だと思う。

原口委員~道の駅は防災の拠点となるのか。

(事務局) ~防災拠点の位置づけも含めて建設しております。水害以外の災害に対応できる施設となっております。併せて、札幌開発建設部に整備をしていただいた駐車場は、冬期間の吹雪対策の退避場としての役割がある。

宮崎委員~道の駅を観光拠点として活用するのは皆さま道の駅を建設すると決まったときから発想されると思いますが、防災拠点の話も出ましたし、地元の方に使っていただく話もできましたし、最近のトレンドは観光以外でどういう機能を持たせるかというのは必要となっている。当別町は札幌にも近いし、市街地もありますが、道の駅のブランドがあって、国道利用者が道の駅を利用することで自然に人が流れるので、新しい商業施設ができて、新しいプロジェクトが立ち上がるのは貴重なのでそのような施設をどう使うかを考える必要がある。ひとつは防災拠点、太美地区にスーパーが出店予定なので大丈夫だと思いますが、地域の生活の拠点、福祉サービスとの拠点等、生活サービス機能拠点として模索することも必要だと思います。バスの乗り継ぎ場所としてサービスを受けることができないか等、必ずしも乗換が駅でないといけないことはないもので、路線の系統のとりかたによって、観光以外で訪れたいと思う施設して、地域の方で道の駅を使い尽くし、地方創生の拠点としての発想を持ちながら検討いただければいいのかと思います。このことが当別町の道の駅にふさわしいかどうかですが、オープンに向けて道の駅担当の方は、いろいろ苦労されていると思いますので意見としていただければと思います。

佐藤委員～C C R C構想が完成したと思いますが、住民周知よりプレスリリースが先になって、住民は説明も受けてないし理解もしていない。C C R C構想のときに住民の理解が必要だという話をさせていただいた。当別町の行政推進員会議で全40行政区が集まって会議をしたときは、当別本町の方は、道の駅も含めて西に色々なものがいっており疎外感を持っており、本町と西側の溝が深まっている。

佐々木委員～最近新聞でドローン練習場の記事があり、当別町は農業が盛んでドローンを使ってデータ収集や農薬散布が未来にかけて相当出てくるかと思いますが、ドローンを核とした町づくりをやっていくところは少ないと思いますので、中身はこれからだと思いますが、練習場があって岩田地崎が場所を提供して建設業界を中心に協会をフォローしているバックグラウンドはあるので、協会、J Aを組み合わせる地方創生の良さを取れるのではないかと注目している。

(事務局)～人口集中地区(D I D地区)本町地区にしかありませんので、ドローンを飛ばす規制はあまりない状況です。

佐々木委員～農業データや科学的データを分析することが宝の山だと思います。観光視点も大事ではあるが、データ分析で活用することを期待している。

宮崎委員～町の施策を検討するときは、地域地域で考えていかないといけない。この委員会ではすべてのK P Iが正しい方向に進んでいるかを見るのは、無理なのでこの部分は、役場の皆さまでシナリオを持って進めることが重要であります。エリア概念をもって考えていかないとしたときに、人口を増やす地域、現状維持する地域、減ってしまう地域を考えそのために機能をどう集積するかを考えていかないといけない。例えば図書館と建設するとなったときに3つ4つ建設する訳にはいかず、どこに建設すれば町民の利益になるのかをきちんと考えなければいけない。道の駅についても、ここで得た収益をどう活かすのかとなった場合に、現在の建設地になった等、投資は地域地域に限定的に行われるのは当然ですけど、なぜその場所が適切なのかを説明していかないと、これから立地適正化計画を検討ともありますので、なぜその場所なのかというのは丁寧に決めていかないといけない。

#### (4) その他

佐々木委員～次回以降のスケジュールについて、もう少し詳しくお知らせして欲しい。  
(事務局)～次回の会議までに用意します。

※次回は、事前調整のとおり、6月27日(火)開催で確認

(以上)